

道南連携地域 「地域づくり推進ビジョン」

- | | | |
|-------------------------------|----------|----------|
| 1. 地域の目指す姿（別紙 1） | ・・・・・・・・ | P 1 ～ 2 |
| 2. 地域の現状・課題（別紙 2） | ・・・・・・・・ | P 3 ～ 5 |
| 3. 地域重点プロジェクト（別紙 3 - 1、3 - 2） | ・・・・・・・・ | P 6 ～ 24 |

【函館開発建設部】

道南連携地域「地域づくり推進ビジョン」

(別紙 1)

I 地域のめざす姿

〈概ね10年の地域のめざす姿を示しています。〉

道南地域が誇る個性豊かな歴史や文化、多彩で特色ある食や自然の魅力を高め、環境と経済が調和しながら成長し続ける、本州と北海道の懸け橋「道南連携地域」

本州に隣接しているという特性を活かし、この地域固有の食や歴史文化等の資源に磨きをかけ、北海道新幹線の札幌開業を見据えた広域観光の促進や離島振興による関係人口の創出・拡大を推進するほか、農林水産業の生産力向上と担い手の育成・確保を図りながら、高等教育機関や試験研究機関と連携した産業振興を推進し、地域特性を活かした企業誘致の促進など、経済の活性化と雇用の創出に取り組みます。

また、再生可能エネルギーの活用をはじめ、豊かな自然環境と調和した脱炭素型の地域づくりや防災・減災対策、持続的な地域交通・物流の維持確保を推進するなど、快適で安心して暮らせる地域社会を形成します。

■ 連携地域の主な施策の方向（今後5年程度）					
1. 北海道新幹線の札幌開業を見据えた交流人口・関係人口等の創出・拡大	2. 地域特性を活かした脱炭素化の推進	3. 持続可能な農林水産業の展開	4. 誰もが安心して住み続けられる地域社会の維持	5. 地域産業の振興と雇用の創出	6. 縄文遺跡群などを活用した魅力あふれる地域づくり
・北海道新幹線の札幌開業による交流人口の拡大に向けた広域観光の促進 ・東北・北関東との交流の充実 ・新幹線駅や空港をはじめとした交通拠点からの二次交通の利便性向上 ・新たな旅行スタイルを踏まえた観光商品の開発 ・歴史・文化・第一次産業など地域固有の資源を活用した誘客の促進 ・観光受入体制の強化 ・関係機関の連携した情報発信による認知度の向上 ・短期就農体験などの担い手対策と連動した移住・定住体験の推進 ・移住イベント等を活用した道南の魅力発信 ・地域おこし協力隊向け研修会等の開催による活動支援	・「ゼロカーボン北海道」の実現に向けた取組の推進 ・地域の特性を活かした洋上風力発電などの再生可能エネルギーの利活用推進 ・環境教育などによる地域の環境保全の推進 ・自然公園の適切な管理と利用、野生動植物の適正な保護管理の推進 ・ブルーカーボンに資する藻場の保全	・ICT等を活用したスマート農林水産業の推進 ・地域のニーズに対応した新品種・新技術の普及推進 ・農業の生産力・競争力の強化に向けた農業生産基盤の計画的な整備 ・機能低下が懸念される農業水利施設等の補修・更新 ・適正な資源管理や栽培漁業の推進などによる持続可能な生産体制の整備 ・産業間連携の展開や販路の多角化に向けた支援 ・地域の特色ある農林水産業のブランド化など付加価値向上の取組の推進 ・基幹産業である農林水産業を支える担い手の育成・確保	・住民の移動手段である公共交通の維持・確保 ・必要な医療を安心して受けられる医療提供体制の確保 ・少子高齢化の進行に対応した福祉の充実、取組の推進 ・防災・減災体制の充実・強化 ・離島地域における安心して暮らせるまちづくりの推進 ・新興感染症に備えた各医療機関の実情に応じた医療提供体制の整備 ・ヒグマ保護管理の推進	・産学官金の連携による地域産業の育成、活性化、起業の促進 ・豊かな地域資源や地域特性を活用した企業誘致の促進 ・若年層や障がい者などを始めとした地域産業を支える多様な人材の就業支援と就業環境の整備促進 ・外国人材受入れに関する制度、多文化共生への理解の促進	・縄文文化の魅力発信と次世代への継承の推進 ・縄文遺跡群をはじめとする地域資源を活用した誘客促進

道南連携地域「地域づくり推進ビジョン」

(別紙1)

I 地域のめざす姿

〈概ね10年の地域のめざす姿を示しています。〉

道南地域が誇る個性豊かな歴史や文化、多彩で特色ある食や自然の魅力を高め、環境と経済が調和しながら成長し続ける、本州と北海道の懸け橋「道南連携地域」

本州に隣接しているという特性を活かし、この地域固有の食や歴史文化等の資源に磨きをかけ、北海道新幹線の札幌開業を見据えた広域観光の促進や離島振興による関係人口の創出・拡大を推進するほか、農林水産業の生産力向上と担い手の育成・確保を図りながら、高等教育機関や試験研究機関と連携した産業振興を推進し、地域特性を活かした企業誘致の促進など、経済の活性化と雇用の創出に取り組みます。

また、再生可能エネルギーの活用をはじめ、豊かな自然環境と調和した脱炭素型の地域づくりや防災・減災対策、持続的な地域交通・物流の維持確保を推進するなど、快適で安心して暮らせる地域社会を形成します。

■ 連携地域の主な施策の方向（今後5年程度）					
1. 北海道新幹線の札幌開業を見据えた交流人口・関係人口等の創出・拡大	2. 地域特性を活かした脱炭素化の推進	3. 持続可能な農林水産業の展開	4. 誰もが安心して住み続けられる地域社会の維持	5. 地域産業の振興と雇用の創出	6. 縄文遺跡群などを活用した魅力あふれる地域づくり
・コワーキングスペースなどの、ワーケーションに必要な施設等の整備の推進 ・ワーケーションの余暇を充実させるための観光メニューの造成 ・地域と学校の連携・交流を促す地学協働プロジェクトの実施 ・アドベンチャートラベルの普及拡大に向けた取組の推進					

道南連携地域「地域づくり推進ビジョン」

(別紙2)

II 地域の現状・課題

1 北海道新幹線の札幌開業やポストコロナを見据えた交流・定住の促進

- ・北海道新幹線（新函館北斗・札幌間）の早期完成に向けて、引き続き積極的な要請活動を行う必要があります。
- ・新型コロナウイルス感染症の影響により減少した観光客の回復に向け、首都圏や東北、アジア圏を中心とした海外を対象にPR活動を行う必要があります。
- ・受入体制の強化や二次交通の利便性向上、更なる広域観光の促進に取り組んでいく必要があります。
- ・日本遺産などに認定された歴史や文化を活かした誘客を促進する必要があります。
- ・農漁村地域への誘客を促進するため、グリーンツーリズムやマリンツーリズムの連携を強化する必要があります。
- ・歴史や文化などの地域資源を活かした着地型観光や、通年型観光を推進するため、ガイド人材の育成など地域の受入体制を整備する必要があります。
- ・外国人観光客の誘客促進に向け受入体制やプロモーションを強化する必要があります。
- ・地域おこし協力隊を含む市町における移住・定住の取組について、認知度を高める必要があります。
- ・地域おこし協力隊が任期満了後も地域に引き続き住んでもらえるよう、取組を進める必要があります。
- ・地域の魅力を効率的かつ効果的に情報発信することにより、ワーケーションを推進するとともに移住・定住の取組に繋げる必要があります。
- ・ワーケーション等で活用できるコワーキングスペースやサテライトオフィス等の必要な施設等を整備する必要があります。
- ・ワーケーション時の余暇を充実させるための観光メニューを開発する必要があります。
- ・若者の定着や将来のUターンを促すため、若年層のシビックプライド（地域への愛着）を醸成する必要があります。

2 「ゼロカーボン北海道」の実現に向けた取組の推進

- ・気候変動対策に係る各種事業と連携しながら、地域が一体となって「脱炭素」に取り組む必要があります。
- ・森林環境譲与税等を活用し、吸収源対策として森林を適正に管理していく必要があります。
- ・豊かな自然環境と調和した脱炭素型の地域づくりに向けて、道南特有の気候や環境を活かした再生可能エネルギーの開発・導入を促進する必要があります。
- ・洋上風力発電事業は、協議会構成員や地域の関係者の理解が重要となることから、丁寧に議論を進めていく必要があります。
- ・ラムサール条約湿地に登録されている大沼の水質改善など、環境の保全に努める必要があります。
- ・自然環境を守るため、生物多様性を保全する必要があります。
- ・藻場の保全・創造やCO2吸収量の評価等は、関係機関と連携し取組を進める必要があります。

道南連携地域「地域づくり推進ビジョン」

(別紙2)

II 地域の現状・課題

3 持続可能な農林水産業の確立

- ・農林水産業の効率化・高度化を図るため、ICTを活用したスマート農林水産業を推進する必要があります。
- ・収益拡大のため、高収益作物の更なる生産拡大・新規導入を促進する必要があります。
- ・経営規模が小さくほ場も狭小なため、担い手への農地の集積・集約化を進め、生産力・競争力の強化に向けた農業生産基盤を整備する必要があります。
- ・農業水利施設等の老朽化による機能低下が懸念されており、適切に補修・更新する必要があります。
- ・災害に強い農業の推進に向け、農地及び農業用施設の災害を防止するための施設を整備する必要があります。
- ・スルメイカなど主要魚種の漁業生産が落ち込んでいるため、海洋環境の変化に対応した栽培漁業を推進することで、漁業経営の安定化を図る必要があります。
- ・道南産品の付加価値向上などのならなる磨き上げや、販路拡大への支援に取り組む必要があります。
- ・地域の農産物の収益性向上を図るため、ブランド化や付加価値向上などに取り組む必要があります。
- ・道南の地域材の普及に向け、HOKKAIDO WOODなどのブランド化や更なる普及啓発に取り組む必要があります。
- ・海洋環境の変化等によりブリが増えるなど、漁獲に変化が見られることから、ブリの消費拡大に向け、新たな加工品の開発などに取り組んでおり、認知度向上に向けた取組を一層推進するなど、引き続き、付加価値向上や未利用資源の有効活用などに取り組む必要があります。
- ・農林水産業の就業者が減少しているため、担い手を育成・確保する必要があります。

4 安心して暮らせる地域社会の維持

- ・避難所運営などにおいて、感染症に対応した体制を確立する必要があります。
- ・災害に強い地域づくりに向けた取組のほか、地域の防災リーダーの育成、自主防災組織活動カバー率の向上など、ハード・ソフト両面で地域防災力を強化していく必要があります。
- ・希望する誰もが結婚や子どもを生み、育てることができる環境づくりを推進する必要があります。
- ・住み慣れた地域で将来にわたって必要な医療を安心して受けられるよう医療体制の確保を図る必要があります。
- ・地域包括ケアシステムの整備など、住民の健康づくりを進める必要があります。
- ・医療・福祉従事者の確保・離職防止に取り組む必要があります。
- ・医療機関によって人材や資材等の条件が異なるため、実現可能な範囲で協定を締結する等、実情を考慮しながら体制を整備する必要があります。
- ・人口減少や新型コロナウイルス感染症の影響によりバスやフェリーといった公共交通機関の乗客数が減少していることから、未来技術も活用しながら地域交通の維持を図る必要があります。
- ・人口減少や高齢化進行に伴う生活インフラの減少や生活交通手段の不足、空き家の増加などの問題について、地域の実情に即して、未来技術も活用しながら対応していく必要があります。
- ・物流や交通のネットワーク充実や救急患者の迅速な搬送にも寄与する高規格道路を整備する必要があります。
- ・ヒグマとのあつれき低減を図るとともに、ヒグマに対応できる人材を育成する必要があります。

道南連携地域「地域づくり推進ビジョン」

(別紙2)

II 地域の現状・課題

5 地域経済の活性化と雇用の創出

- ・さまざまな商環境の変化等に対応するため、事業者の各種事業活動を支援する必要があります。
- ・水産・海洋に関する試験研究機関や大学、関連企業が集積している地域特性を活用し、産学官金が連携して行う新製品や新技術の開発を促進する必要があります。
- ・バラエティ豊かな地域産品が調達可能で、かつ、大学・試験研究機関の集積地、交通物流の拠点、道内有数の観光地であるといった有利な地域特性を活かして企業誘致を促進する必要があります。
- ・地域の産業を担う次世代の人材が不足しており、人材を育成・確保する必要があります。
- ・新規高卒者の雇用促進や定着に向け、就職段階でのミスマッチを解消する必要があります。
- ・障がい者が能力を十分に発揮することできるよう職場環境づくりを進める必要があります。
- ・外国人材受入れに関する制度や多文化共生に関する理解が不足していることから、セミナー等の開催を通じて、地域の意識醸成を図る必要があります。

6 縄文遺跡群を活かした地域振興

- ・世界文化遺産である「北海道・北東北の縄文遺跡群」をはじめとして、管内各市町が有する縄文文化の魅力や価値を広く発信する必要があります。
- ・縄文関連イベントなどで縄文文化に触れる機会を確保するなど世界遺産についての理解促進を図るとともに、観光資源としての活用を通じて地域における賑わいの創出や地域の振興に繋げる必要があります。
- ・アドベンチャートラベルのコンテンツへと繋がられるよう、観光資源としての魅力を高め、受入体制や二次交通の整備などを進める必要があります。

道南連携地域「地域づくり推進ビジョン」

(別紙3-1)

III 地域重点プロジェクト

道南連携地域 地域重点プロジェクトの各プロジェクトの概要

推進主体：国（赤字）、
道（青字）

項目	1 食	2 観光・交流	3 産業・雇用	4 脱炭素・環境	5 暮らし・社会基盤
地域のめざす姿	1 持続可能な農林水産業の展開	2 北海道新幹線の札幌開業を見据えた交流人口・関係人口等の創出・拡大 6 縄文遺跡群などを活用した魅力あふれる地域づくり	3 地域産業の振興と雇用の創出	4 地域特性を活かした脱炭素化の推進	5 誰もが安心して住み続けられる地域社会の維持
地域重点プロジェクトの概要	1-（1）農林水産業・食関連産業の持続的な発展プロジェクト	2-（1）魅力あふれる観光地域づくりプロジェクト	3-（1）農林水産業・食関連産業の持続的な発展プロジェクト 【再掲】1-（1）	4-（1）ゼロカーボン北海道プロジェクト	5-（1）安全・安心に住み続けられる強靱な国土づくりプロジェクト
	1-（2）地域に根ざした農林水産業の持続的な発展プロジェクト	2-（2）北海道新幹線の札幌開業を見据えた交流・定住促進プロジェクト	3-（2）魅力ある観光地域づくりプロジェクト 【再掲】2-（1）	4-（2）地域の強みを活かした成長産業の形成プロジェクト【再掲】3-（3）	5-（2）共創による多様な豊かな地域社会の形成プロジェクト
		2-（3）縄文遺跡群などを活用した魅力発信と誘客促進プロジェクト	3-（3）地域の強みを活かした成長産業の形成プロジェクト	4-（3）自然共生社会・循環型社会の形成プロジェクト	5-（3）暮らしの安全・安心を支えるまちづくりプロジェクト
			3-（4）地域の強みを活かした産業活性化・雇用創出プロジェクト	4-（4）道南の優位性を活かしたゼロカーボンプロジェクト	

(別紙 3 - 2)

1－（１）、３－（１） 農林水産業・食関連産業の持続的な発展プロジェクト		／推進主体：国 ■推進エリア：道南連携地域（渡島・檜山）	（１／３）
1 食関連プロジェクト ／《地域のめざす姿》 1 持続可能な農林水産業の展開 3 産業・雇用関連プロジェクト ／《地域のめざす姿》 3 地域産業の振興と雇用の創出			
【プロジェクトの概要】 食料生産力の向上により道南地域の農林水産物が安定的に供給されるとともに、デジタル技術等の活用による幅広い農林水産業・食関連産業の展開によって道南地域の所得が向上し、我が国の食料安全保障に貢献することを目指します。			
主な取組 ○農業の生産力を強化する生産基盤の整備・確保 ・老朽化が進行する農業水利施設の長寿命化とライフサイクルコストの低減を図るため、農業水利施設の戦略的な保全管理の推進 ・ほ場の大区画化や水路のバイプライン化、地下水位制御システム等の技術導入、作業効率の向上や水管理の省力化による維持管理労力の低減。 ・土壌改良と排水不良を改善、農地の有効活用のための汎用化、土地生産性の向上による農業生産額の拡大 ・GPS自動走行システム等、ICT技術を活用した大型農作業機械の導入するスマート農業の推進による、生産コストの低減、高品質生産、担い手への農地利用集積の促進 ○水産業の生産力を支える水産基盤の整備 ・「水産業の成長産業化に向けた拠点機能強化対策」として、岸壁や道路の整備、「持続可能な漁業生産を確保するための漁港施設の強靱化・長寿命化対策」として防波堤や護岸、泊地などの整備の推進 ○農林水産業の持続性を支える農山漁村の振興 ・地域の風土や特色ある農林水産物・食品を活かしたブランド力の強化 ・農山漁村地域が持続的に運営される仕組みづくりの推進 ○豊富な地域資源を活用した農林水産業と他の産業との連携 ・「北海道マリンビジョン」の推進 ・「わが村は美しく北海道」運動等による農山漁村に対する理解醸成 ・道の駅の休憩・情報発信・地域連携等の機能・魅力の向上	実施主体 国、道、市町 国、道、市町 国、道、市町、民間 国、道、市町、民間	主な取組 ○農林水産業を支える物流基盤の整備 ・スピーディーな物流を実現させ、農産物の産地加工を促進する高速交通ネットワーク整備の推進 ・安全・確実に農産物を供給するための道路整備の推進 ・輸出入・移出入の拠点となる空港・港湾施設の整備の推進 ・物流システム構築に向けた取組の推進 【官民共創の取組み】 ・地域マリンビジョン協議会への参画及び現行ビジョンの改訂 函館（入舟）地域マリンビジョン推進協議会 函館（臼尻）地域マリンビジョン推進協議会 松前江良地域マリンビジョン協議会 福島地域マリンビジョン協議会 北海道砂原地域マリンビジョン協議会 八雲町熊石地域マリンビジョン協議会 奥尻地域マリンビジョン協議会 せたな町大成地域マリンビジョン協議会 ・「わが村は美しく北海道」運動の推進 農山漁村における住民主体の地域活性化活動を支援 ・物流システム構築に向けた取組の推進 北海道物流マッチングモデル「道南ロジスク」への参画	実施主体 国、道、市町、民間

道南連携地域「地域づくり推進ビジョン」

(別紙3-2)

III 地域重点プロジェクト

1-(1)、3-(1) 農林水産業・食関連産業の持続的な発展プロジェクト / 推進主体：国 ■推進エリア：道南連携地域（渡島・檜山） (2/3)			
主な取組	実施主体	主な取組	実施主体
【主な基盤整備】 (国 R7 施行) ○道路 ・高規格道路網等の整備 北海道縦貫自動車道 ○港湾 ・物流機能を強化する国内物流ターミナルの整備 函館港 榎法華港 森港 江差港 奥尻港 瀬棚港 ○空港 ・浸水対策施設の整備 函館空港 ○漁港 ・水産物輸送の効率化を図る臨港道路の整備 白尻漁港 ・水産物の衛生管理対策に資する岸壁等の整備 福島漁港 砂原漁港 ・港内静穏度向上を図る防波堤等の整備 江良漁港 青苗漁港 ・長寿命化対策としての岸壁等の補修 熊石漁港 久遠漁港 神威脇漁港		青苗漁港 大島漁港 小島漁港 山背泊漁港 白尻漁港 砂原漁港 ・地域マリンビジョンによる水産業及び漁村地域の活性化 ○農業 ・国営造成水利施設ストックマネジメント推進事業 ・国営緊急農地再編整備事業(今金南地区・今金北地区) ・国営かんがい排水事業（北斗用水地区）	

道南連携地域「地域づくり推進ビジョン」

(別紙3-2)

III 地域重点プロジェクト

1- (2) 地域に根ざした農林水産業の持続的発展プロジェクト / 推進主体：道 ■推進エリア：道南連携地域（渡島・檜山） (1/2)			
1 食関連プロジェクト / 《地域のめざす姿》 1 持続可能な農林水産業の展開			
【プロジェクトの概要】 道南連携地域では、太平洋と日本海、津軽海峡に囲まれ、道内でも比較的穏やかな気候風土の中で、多彩で特色ある農林水産業が展開されてきましたが、原材料価格の高騰、水産資源の変動、他地域を上回るペースで進む担い手の減少や高齢化など、大変厳しい環境に直面しています。 こうした中、農林水産業が地域の基幹産業として、将来にわたり成長していくため、製品のブランド化や適正な資源管理などによる付加価値の向上、販路の拡大などの取組を進めます。 また、デジタル技術を活用した生産体制の高度化や省力化を進めるとともに、移住・定住施策と連動しながら新規就業者の確保を図るなど、担い手不足への対応に向けて積極的に取り組んでいきます。			
主な取組	実施主体	主な取組	実施主体
○農林水産業の生産力向上 ・立茎アスパラガスやブロッコリー、きぬさやえんどう、長ねぎ、トマト、ニラなどの高収益農作物の生産拡大や新規作物導入の促進 ・ホタテガイやコンブなどの養殖業、檜山沿岸におけるニシンの稚魚放流やナマコの種苗放流などによる増養殖事業の推進 ・小規模経営にも対応可能なスマート農林水産技術の実証と技術の普及 ・ほ場の大区画化や排水対策などの農業生産基盤の強化 ・機能低下が懸念される農業水利施設等の補修・更新の計画的な実施 ・災害に強い農業の推進に向け、農地及び農業用施設の災害を防止するための施設整備の推進 ・漁港の有効活用や水産資源の増大に向けた増養殖施設の整備など、水産基盤の強化 ○農林水産業の付加価値向上と販路拡大 ・国内の都市部やアジア等海外での一次産品や加工品のPRの推進 ・農林水産物の付加価値向上によるブランド化の推進 ・バラエティに富んだ産品を組み合わせた加工品の開発など、研究機関や地域商社等と連携した6次産業化の推進 ・醸造用ブドウや酒米等の生産拡大と、それらを活用した酒類の製造促進 ・「今金男しゃく」や「檜山海参（ハイシェン）」といったGI（地理的表示）保護制度登録を活用した販売の促進 ・道南スギをはじめとする地域材の利用促進と森林認証材を活用した付加価値向上に向けた取組の推進 ・道南産ブリの消費拡大に向けた新商品開発の推進や未利用資源の活用	国、道、市町、民間	○農林水産業への新規就業につながる担い手対策の推進 ・広域連携による担い手対策の推進 ・農林水産業への新規就業につながる短期移住体験の実施など、移住・定住施策と連携した担い手対策の推進 ・農地や技術の次世代への継承に向けた経営の法人化や第三者等による経営継承の推進 ・農福連携など地域の多様な人材の受入による労働力確保の就業促進 ・北の森づくり専門学院生徒の実習受入などを通じた担い手確保の推進 ・道南の雇用形態に合致した漁業就業者の確保に向けた取組の推進 【関連する主な基盤整備】 ○農地や農業水利施設等の計画的な整備 ・水田、畑、草地等の農業生産基盤の整備 ・機能低下が懸念される農業水利施設等の補修及び更新 ○農地及び農業用施設の機能回復や災害を防止するための施設の整備 ・農地や農業用施設の機能回復の整備 ・地すべり防止施設の整備 ○健全な森林の整備と保全の推進 ・森林（造林・林道）の整備 ・保安林の管理 ○治山施設の整備	

道南連携地域「地域づくり推進ビジョン」

(別紙 3 - 2)

III 地域重点プロジェクト

1 - (2) 地域に根ざした農林水産業の持続的発展プロジェクト / 推進主体：道 ■推進エリア：道南連携地域（渡島・檜山） (2/2)			
主な取組	実施主体	主な取組	実施主体
○水産資源の増大等に向けた施設づくり ・増養殖施設の整備 ○水産物供給基地としての漁港・漁場づくり ・漁港・漁場の整備 ○物流ネットワーク形成のための道路網の整備 ・北海道縦貫自動車道の整備促進 ・函館・江差自動車道の整備促進 ・国道の整備促進 ・道道の整備			

道南連携地域「地域づくり推進ビジョン」

(別紙3-2)

III 地域重点プロジェクト

2-(1)、3-(2) 魅力あふれる観光地域づくりプロジェクト / 推進主体：国 ■推進エリア：道南連携地域（渡島・檜山） (1/2)			
2 観光・交流関連プロジェクト / 《地域のめざす姿》	2 北海道新幹線の札幌開業を見据えた交流人口・関係人口等の創出・拡大		
2 観光・交流関連プロジェクト / 《地域のめざす姿》	6 縄文遺跡群などを活用した魅力あふれる地域づくり		
3 産業・雇用関連プロジェクト / 《地域のめざす姿》	3 地域産業の振興と雇用の創出		
【プロジェクトの概要】 自然環境や歴史・文化を活かした高付加価値な観光資源の創出・拡充によりトップクラスの観光地域づくりを推進し、北海道ブランドの確立を目指します。また、観光は実際にその場に行くというリアルを前提に成立しており、交通ネットワークの整備等のリアルを支えるインフラ整備を推進します。			
主な取組	実施主体	主な取組	実施主体
○多様な旅行者の誘客に向けた安全・安心な受入環境整備の推進 ・空港・港湾の受入機能強化・高規格道路の整備による移動利便性向上 ・河川空間の利用者に配慮した河川整備の推進 ・景観に配慮した道路整備の推進 ・食のブランド力向上のための、農漁村環境・景観に配慮した生産基盤整備の推進 ・移動を含めて楽しむドライブ観光やサイクルツーリズム、河川空間やインフラを活用したツーリズム、地域資源を活用した観光振興に向けた環境の創出 ・広域観光周遊ルート形成に向けた観光地点間の連携強化と外国人観光客の文化習慣に配慮した受入環境や観光案内の充実 ・無電柱化、交通安全対策の推進 ・人が集まる魅力的な場となる複合交流拠点づくり ・離島地域における本土への安定的なアクセスの確保 ○多様な主体との連携による地域資源を活用した持続可能な観光地域づくりの推進 ・全国最多で「水質が最も良好な河川」に選出されている後志利別川の清流と豊かな自然環境等を活かした「かわたびほっかいどう」プロジェクトの推進 ・地域による「美利河ダム水源地域ビジョン」等の取組の支援 ・住民と連携した観光振興・シーニックバイウェイ」や「みなとオアシス」等の自然環境・文化や景観と観光が両立した協働による観光地域づくりの促進 ・水産業と観光の連携など水産業を核とした地域振興方針である「北海道マリンビジョン」の推進 ・地域の景観、交流など地域住民主体の地域活性化活動を支援する「わが村は美しくー北海道」の推進 ・縄文遺跡群等を活用した観光地域づくりのための魅力発信	国、道、市町、民間 国、道、市町、民間	・共創を通じた地域コミュニティの担い手の育成・確保及び交流人口・関係人口の拡大 【官民共創の取組み】 ・かわたびほっかいどうの推進 後志利別川流域の町と連携し、水辺の利活用を促進 ・シーニックバイウェイ活動団体との連携及びルート運営行政連絡会議の開催 函館・大沼・噴火湾ルート どうなん・追分シーニックバイウェイルート ・サイクルツーリズム活動団体との連携及び推進協議会への参画 南北海道サイクルツーリズム推進協議会 ・みなとオアシス活動団体との連携及び、運営協議会への参画 みなとオアシス函館運営協議会 みなとオアシス江差運営協議会 ・地域マリンビジョン協議会への参画及び現行ビジョンの改訂 函館（入舟）地域マリンビジョン推進協議会 函館（白尻）地域マリンビジョン推進協議会 松前江良地域マリンビジョン協議会 福島地域マリンビジョン協議会 北海道砂原地域マリンビジョン協議会	

道南連携地域「地域づくり推進ビジョン」

(別紙3-2)

III 地域重点プロジェクト

2-(1)、3-(2) 魅力あふれる観光地域づくりプロジェクト / 推進主体：国 ■推進エリア：道南連携地域（渡島・檜山） (2/2)			
主な取組	実施主体	主な取組	実施主体
八雲町熊石地域マリナビジョン協議会 奥尻地域マリナビジョン協議会 せたな町大成地域マリナビジョン協議会 ・「わが村は美しくー北海道」運動の推進 農山漁村における住民主体の地域活性化活動を支援 ・官民連携による地域共創インフラツアアの展開 ・官民連携による縄文遺跡群のPR 【主な基盤整備】 (国 R7 施行) ○河川 ・かわたびほっかいどう ・河川事業 後志利別川 美利河ダム ○道路 ・高規格道路網等の整備 北海道縦貫自動車道 ・無電柱化の推進 函館若松電線共同溝（国道5号） 赤松街道電線共同溝（国道5号） 十字街電線共同溝（国道279号） ・交通安全対策 宿野辺付加車線整備（国道5号） 駒ヶ岳中央帯整備（国道5号） かもめ島入口交差点改良（国道228号） 神丘視距改良、今金路肩改良（国道230号） 鉛川視距改良（国道277号） ・シーニックバイウェイ活動団体との連携		○港湾 ・魅力ある観光地づくりに寄与する「函館国際水産・海洋都市構想」の中核施設を担う岸壁の整備 函館港 ・離島航路の機能強化のための整備 江差港 ・みなとを活用した交流拠点の形成 函館港、江差港 ○空港 ・ゲートウェイ機能確保のための施設整備促進 函館空港 ○漁港 ・地域マリナビジョンによる水産業及び漁村地域の活性化の推進 ○農業 ・国営緊急農地再編整備事業(今金南地区・今金北地区)	

道南連携地域「地域づくり推進ビジョン」

(別紙3-2)

III 地域重点プロジェクト

2-(2) 北海道新幹線の札幌開業を見据えた交流・定住促進プロジェクト / 推進主体：道 ■推進エリア：道南連携地域（渡島・檜山） (1/1)			
2 観光・交流関連プロジェクト / 《地域のめざす姿》 2 北海道新幹線の札幌開業を見据えた交流人口・関係人口等の創出・拡大			
【プロジェクトの概要】 新型コロナウイルス感染症の世界的な感染拡大により、地域経済や社会生活は大きな影響を受けてきましたが、観光需要は本格的な回復基調にあり、また、コロナ禍を経て、ワーケーションといった新たな働き方など地方回帰の動きも見られています。 こうした動向を的確に捉え、今後の北海道新幹線（新函館北斗・札幌間）の開業も見据え、歴史・文化・食など地域の資源を最大限に活かし、個性豊かな観光地づくりと受入体制の充実、ワーケーション等による長期滞在や移住定住の促進など、交流人口や関係人口等の創出・拡大に向け、地域の総力を挙げて取り組みます。			
主な取組	実施主体	主な取組	実施主体
○北海道新幹線の札幌開業を見据えた交流の拡大 ・新幹線PRイベント等の実施や広域観光エリアの情報発信 ・国内客、インバウンド客の一層の誘客 ・縄文遺跡群や各種文化遺産、アウトドアなど、地域固有の魅力あるコンテンツを組み合わせた広域観光メニューの開発 ・縄文遺跡群や歴史・文化交流に基づく青函圏の交流の推進 ・Ma a Sの導入なども視野に入れた二次交通の利便性向上 ○個性豊かな観光地づくりと受入体制の充実 ・空き家の活用や民泊導入などによる宿泊受入体制の強化 ・地域固有の歴史・文化やグリーンツーリズム・マリンツーリズムなど地域特性を活かした観光商品の開発 ・ガイド育成や外国語対応の強化など、観光受入体制の強化 ・観光に係る地域課題に対応できる観光人材の育成 ・地元観光関係者で構成する観光戦略検討プラットフォーム等を活用した受入体制強化の促進 ○道南の多様な魅力を活かした移住・定住及びワーケーション等の推進 ・ふるさと回帰支援センターなどの関係機関と連携した情報発信 ・短期就農体験などの担い手対策と連動した移住・定住体験の推進 ・移住イベント等を活用した道南の魅力発信 ・地域おこし協力隊向け研修会や活動発表会等の開催による活動支援 ・ワーケーション向け観光・体験メニューの造成など、地域が一体となった取組の推進 ・コワーキングスペースやサテライトオフィス、長期滞在者向けの宿泊施設などの整備促進 ・将来的な関係人口の創出に向けた地学協働プロジェクトの推進	国、道、市町、民間	【関連する主な基盤整備】 ○北海道新幹線の整備促進 ・新函館北斗・札幌間の整備促進 ○高規格道路の整備 ○物流ネットワーク形成のための道路網の整備 ・北海道縦貫自動車道の整備促進 ・函館・江差自動車道の整備促進 ・国道の整備促進 ・道道の整備 ○地方空港の機能向上に向けた施設の整備 ・既存施設の整備 ○国内海上交通ネットワークの整備 ・重要港湾や地方港湾の整備	

道南連携地域「地域づくり推進ビジョン」

(別紙3-2)

III 地域重点プロジェクト

2-(3)
縄文遺跡群などを活用した魅力発信と誘客促進プロジェクト / 推進主体：道 ■推進エリア：道南連携地域（渡島・檜山） (1/1)

2 観光・交流関連プロジェクト / 《地域のめざす姿》 2 縄文遺跡群などを活用した魅力あふれる地域づくり

【プロジェクトの概要】
令和3年（2021年）7月に「北海道・北東北の縄文遺跡群」が世界文化遺産に登録決定され、北海道初の世界文化遺産が誕生しました。
地域にはこの世界遺産となった遺跡の他にも、北海道初の国宝である中空土偶をはじめとする数多くの縄文の出土品や遺跡が見つかっています。
また、平成29年（2017年）には、江差町並びに函館市及び松前町の歴史的魅力や特色が通じた伝統を語るストーリーが日本遺産として認定されたほか、北海道遺産や特徴的な文化財などが数多くあります。
これら先人から受け継いだ貴重な財産への理解を深め、郷土の誇りと愛着を再認識することで、次世代へ継承していくとともに、これらの魅力ある地域資源を活用し、観光など地域産業の活性化に繋げていく必要があります。
このため、市町村をはじめ、関係団体や地域住民等と連携を図りながら貴重な資源を最大限活用した取組を推進し、魅力あふれる地域づくりに取り組んでいきます。

主な取組	実施主体	主な取組	実施主体
○縄文文化の魅力発信と次世代への継承の推進 ・若年層を中心とした縄文文化の魅力や価値の理解促進 ・地元高校生による幼児・児童向けに縄文の魅力を伝える普及活動等の実施 ・公共交通機関等のパンフレット（多言語）等の設置やSNS等を活用した情報発信 ・パネル展の実施のほか、イベントやメディアを活用した普及啓発 ・地域の縄文展示施設の利用促進 ○縄文遺跡群をはじめとする地域資源を活用した誘客促進 ・縄文コンテンツを活用した観光への利活用の推進 ・日本遺産などの地域資源を活用した商品開発・販売の促進 ・構成資産を有する関係県とのイベントなどを通じた交流や誘客促進 ・縄文コンテンツの充実のほか、受入環境や二次交通の整備によるアドベンチャートラベルの推進	国、道、市町、民間		

道南連携地域「地域づくり推進ビジョン」

(別紙3-2)

III 地域重点プロジェクト

3-(3)、4-(2) 地域の強みを活かした成長産業の形成プロジェクト / 推進主体：国 ■推進エリア：道南連携地域（渡島・檜山） (1/2)			
3 産業・雇用関連プロジェクト / 《地域のめざす姿》 3 地域産業の振興と雇用の創出 4 脱炭素・環境関連プロジェクト / 《地域のめざす姿》 4 地域特性を活かした脱炭素化の推進			
【プロジェクトの概要】 道南地域の基幹産業である農林水産業・食関連産業の展開によって地域の所得が向上し、我が国の食料安全保障に貢献することを目指すとともに、道南地域の強みである「食」、「観光」に加え、「再生可能エネルギー」関連産業等の新たな産業が地域の基幹産業となり、国内外に展開され、地域に雇用が創出されることを目指します。また、持続可能な道路・港湾・空港等による利便性の高い人流・物流ネットワークを構築するとともに、生産空間で生み出した価値を国内外に届けることを目指します。			
主な取組	実施主体	主な取組	実施主体
○地域の強みを活かした再生可能エネルギー関連産業の立地促進・育成 ・港湾における脱炭素化の推進、環境・エネルギー産業、水素関連産業等の立地等の促進に向けた基盤整備 ・港湾・漁港における藻場造成に向けた取組の推進（ブルーカーボンに資する取組） ○基幹産業である農林水産業の持続性を支える農山漁村の振興 ・水産物の付加価値向上や販路拡大のための地域の水産物ブランド化の推進 ・豊富な地域資源を活用した農林水産業と他の産業との連携による「北海道マリンビジョン」の推進。 ・「わが村は美しく-北海道」運動による農山漁村に対する理解醸成。 ・海藻等の未利用資源の活用に関する民間・大学・研究機関との連携 【官民共創の取組】 ・脱炭素化推進協議会への参画 函館港港湾脱炭素化推進協議会 ・ホソメ昆布の活用に関する取組（Jブルークレジット認証に向けた取組の推進） 奥尻地区海藻生産・活用調査検討協議会への参画 ・地域マリンビジョン協議会への参画及び、現行ビジョンの改訂 函館（入舟）地域マリンビジョン推進協議会 函館（臼尻）地域マリンビジョン推進協議会 松前江良地域マリンビジョン協議会 福島地域マリンビジョン協議会 北海道砂原地域マリンビジョン協議会 八雲町熊石地域マリンビジョン協議会	国、道、市町、民間 国、道、市町、民間 国、道、市町、民間	奥尻地域マリンビジョン協議会 せたな町大成地域マリンビジョン協議会 ・「わが村は美しく-北海道」運動の推進 農山漁村における住民主体の地域活性化活動を支援 【主な基盤整備】 （国 R7 施行） ○道路 ・高規格道路網の整備 北海道縦貫自動車道 ○港湾 ・港湾の物流機能拡張の整備 函館港 榎法華港 森港 江差港 奥尻港 瀬棚港 ○空港 ・浸水対策施設の整備 函館空港 ○漁港 ・地域マリンビジョンによる水産業及び漁村地域の活性化の推進	

道南連携地域「地域づくり推進ビジョン」

(別紙3-2)

III 地域重点プロジェクト

3-(4) 地域の強みを活かした産業活性化・雇用創出プロジェクト / 推進主体：道 ■推進エリア：道南連携地域（渡島・檜山） (1/1)			
3 産業・雇用関連プロジェクト / 《地域のめざす姿》 3 地域産業の振興と雇用の創出			
【プロジェクトの概要】 道南連携地域では、函館周辺地域に大学等の高等教育機関や試験研究機関等が集積しており、これらの機関と地域の企業等との連携による共同研究が進められています。バラエティ豊富な地域産品や温暖な気候を生かしたワイナリーの誘致、個別相談会やセミナーの開催により、地域の特性を活かした食関連産業が充実しています。 また、北海道新幹線の新函館北斗駅や函館空港、函館港等の国内外に開かれた交通・物流の拠点を有するほか、高規格道路等の高速交通ネットワークの形成により物流や観光の利便性が高まっています。 さらに、恵まれた地域の自然資源を活用した再生可能エネルギー産業の進出も活発化しています。 これらの強みを活かすべく、「食」や「観光」、「再生可能エネルギー」など、地域を支える産業の振興や企業誘致を推進するとともに、地元中小企業の事業活動の活性化を図り、若年層を中心とした地元への定着及び雇用の創出を図ります。			
主な取組	実施主体	主な取組	実施主体
○地域の強みを活かした地域産業の振興や企業誘致の推進 ・1次・2次・3次産業間および産学官金の連携支援や販路拡大支援などによる地域産業の振興 ・食、観光、再生可能エネルギーなどの地域資源や交通・物流の利便性といった地域特性の情報発信を通じた企業誘致支援 ・地域での起業や製品開発に係るセミナーや勉強会等の開催 ○産業振興と雇用対策との一体的展開による雇用の創出及び若年層の定着 ・個別訪問や説明会等を通じた、企業に対する就業環境の改善の支援 ・企業説明会等を通じた、求職者に対する地元企業の魅力の発信 ・市町や事業者等を対象としたセミナー等の開催による外国人材の受入れ、多文化共生についての理解の促進 【関連する主な基盤整備】 ○物流ネットワーク形成のための道路網の整備 ・北海道縦貫自動車道の整備促進 ・函館・江差自動車道の整備促進 ・国道の整備促進 ・道道の整備 ○地方空港の機能向上に向けた施設の整備 ・既存施設の整備 ○国内海上交通ネットワークの整備 ・重要港湾や地方港湾の整備	国、道、市町、民間	○北海道新幹線の整備促進 ・新函館北斗・札幌間の整備促進	

道南連携地域「地域づくり推進ビジョン」

(別紙3-2)

III 地域重点プロジェクト

4-(1) ゼロカーボン北海道プロジェクト / 推進主体：国 ■推進エリア：道南連携地域（渡島・檜山） (1/3)			
4 脱炭素・環境関連プロジェクト / 《地域のめざす姿》 4 地域特性を活かした脱炭素化の推進			
【プロジェクトの概要】 ゼロカーボン北海道の実現に向け、道南地域において豊富に賦存する再生可能エネルギーを最大限に活用し、水素等の新たなエネルギーの導入や、CO ₂ 吸収源となるブルーカーボン生態系の創出を行い、地域特性を活かした持続可能な脱炭素社会の実現を目指します。			
主な取組	実施主体	主な取組	実施主体
○道南の地域特性を活かした持続可能な脱炭素社会の形成 ・建設施工におけるCO ₂ 削減推進 ・道の駅における急速EV充電施設の設置等の推進 ・港湾における脱炭素化の推進 ○エネルギー基地の形成 ・環境・エネルギー産業、水素関連産業等の立地促進に向けた基盤整備の推進 ○CO ₂ 吸収力の発揮 ・港湾・漁港における藻場造成に向けた取組の推進（ブルーカーボンに資する取組の推進）	国、道、市町 国、道、市町、民間 国、道、市町、民間	【官民共創の取組】 ・脱炭素化推進協議会への参画 函館港湾脱炭素化推進協議会 ・ホソメ昆布の活用に関する取組（Jブルークレジット認証に向けた取組の推進） 奥尻地区海藻生産・活用調査検討協議会への参画 【主な基盤整備】 （国 R7 施行） ○道路 ・「道の駅」の休憩・情報発信・地域連携等の機能・魅力の向上 ・高規格道路網等の整備 ○港湾 ・防波堤・岸壁等の整備 ○技術管理 ・建設工事におけるCO ₂ 削減の見える化（環境家計簿を活用） ・北海道インフラゼロカーボン試行工事の実施	国、道、市町

道南連携地域「地域づくり推進ビジョン」

(別紙 3 - 2)

III 地域重点プロジェクト

4 - (3)

自然共生社会・循環型社会の形成プロジェクト / 推進主体：国 ■推進エリア：道南連携地域（渡島・檜山）

(1/2)

4 脱炭素・環境関連プロジェクト / 《地域のめざす姿》 4 地域特性を活かした脱炭素化の推進

【プロジェクトの概要】

豊かな自然環境・景観が保全され、生物多様性の確保が図られるとともに、自然環境が有する多様な機能をインフラ整備等に積極的に活用し、持続可能な社会の形成を目指すとともに、廃棄物の発生、抑制、循環型資源の再利用・再生利用、バイオマス化など持続可能な形で資源を最大限に利活用する循環型社会の形成を図ります。

主な取組	実施主体	主な取組	実施主体
○自然共生社会の形成 ・魚類の連続性確保（魚類等の移動の連続性確保に向けた調査・検討） ・美利河ダム弾力的管理試験放流による減水区間の魚類遡上支援 ・河川・ダム周辺での生物の生息・生育・繁殖に適した場を保全・再生・創出するための多自然川づくり等の推進 ・河川を身近な自然体験の場として活用する取組の推進 ○資源を最大限に利活用する循環型社会の形成 ・伐採木や建設発生土等の有効利用の促進及び普及啓発	国、道、市町村、民間	【主な基盤整備】 （国 R 7 施行） ○河川 ・後志利別川 ・美利河ダム ○技術管理 ・土砂バンク活用の推進 ・木材バンク活用の推進 【官民共創の取組】 ・ホタテ貝殻の新たな利活用の取組検討 - ホタテ貝殻利活用勉強会	

道南連携地域「地域づくり推進ビジョン」

(別紙3-2)

III 地域重点プロジェクト

4-(4) 道南の優位性を活かしたゼロカーボンプロジェクト / 推進主体：道 ■推進エリア：道南連携地域（渡島・檜山） (1/1)			
4 脱炭素・環境関連プロジェクト / 《地域のめざす姿》 4 地域特性を活かした脱炭素化の推進			
【プロジェクトの概要】 地球環境に大きな影響を及ぼす温室効果ガスの排出削減は、世界共通の最重要課題の一つとなっており、本道においても2050年までに「ゼロカーボン北海道」を実現するとの目標を掲げ、本格的な取組が始まっています。 こうした中、ここ道南連携地域は、風力や地熱など再生可能エネルギーの導入ポテンシャルが非常に高く、CO2の吸収源となる森林が土地面積の8割を占めるなど、大きな強みを有しています。 これらの地域特性を最大限に発揮し、洋上風力などの再生可能エネルギーの活用や森林の循環利用、さらには建築物の省エネ化等に向け、関係者が一体となって取り組み、世界、日本、そして本道の脱炭素化、GXの実現に貢献していきます。			
主な取組	実施主体	主な取組	実施主体
○温室効果ガス排出量削減に向けた取組の促進 ・各市町、事業者と連携した住宅の省エネ化の推進 ・ゼロカーボンに係る地域プロジェクトの支援 ・電気自動車及びV2Xシステムの普及拡大 ・環境教育と環境分野の人材育成の推進 ○地域資源を活かした再生可能エネルギーの利活用推進 ・松前沖及び檜山沖における洋上風力発電事業の実現に向けた取組の推進 ・再生可能エネルギー関連産業の誘致促進 ○吸収源対策としての森林や藻場の適正管理と自然環境の保全 ・市町との連携による森林環境譲与税を活用した森林整備の推進 ・豊かな森林づくりのための木育の推進 ・檜山地域日本海グリーンベルト構想など、檜山の森づくり運動の展開 ・大沼の環境保全のための環境学習や啓発事業の実施 ・アライグマなどの外来生物に関する情報発信 ・ヒグマやエゾシカなどの野生鳥獣に関する普及啓発及び保護管理 ・藻場の保全活動の推進 【関連する主な基盤整備】 ○健全な森林の整備と保全の推進 ・森林（造林・林道）の整備 ・保安林の管理 ○治山施設の整備	国、道、市町、民間		

(別紙 3 - 2)

5 - (1) 安全・安心に住み続けられる強靱な地域づくりプロジェクト / 推進主体：国 ■推進エリア：道南連携地域（渡島・檜山） (1/2)			
5 暮らし・社会基盤関連プロジェクト / 《地域のめざす姿》 5 誰もが安心して住み続けられる地域社会の維持			
【プロジェクトの概要】 気候変動により激甚化・頻発化する水災害や巨大地震等の大規模自然災害に対し、あらゆる主体の総力を結集し、安全・安心な地域社会が構築されるとともに、災害時における人流・物流ネットワークやライフライン機能を確保し道南地域の生産空間を守り安全・安心に住み続けられる強靱な地域づくりを目指します。			
主な取組		実施主体	
○気候変動に伴い激甚化する水災害に対する防災力の強化 ・令和5年3月に変更した後志利別川整備計画に基づく河道掘削や堤防整備等のハード対策の推進 ・災害時における水防活動や災害復旧のための拠点の整備 ・流域関係者が協働して行う「流域治水プロジェクト」の推進 ・函館空港における浸水対策の推進 ○大規模災害に対する生産・社会基盤の強靱化 ・法面対策、耐震補強、豪雨対策、越波対策、予防保全事業等による安全快適な道づくりの推進 ・船舶を波浪から守る防波堤等の港湾・漁港施設の整備 ・道路の防災、老朽化対策、無電柱化、代替性確保のための道路ネットワーク整備の推進 ・常時観測対象火山である駒ヶ岳噴火時の迂回路・避難路の確保 ・リエゾン（現地情報連絡員）、TEC-FORCE（緊急災害対策派遣隊）、MAFF-SAT（漁港施設等災害緊急派遣調査員・農地農業用施設等災害緊急派遣調査員）の派遣、除雪機械や災害対策用資機材の貸与等、きめ細やかな地域支援やバックアップ体制の強化 ○冬期災害や複合災害に対する防災力の強化 ・冬期間の猛烈な地吹雪などによる通行止め解消や交通事故防止のため、効率的な除排雪の実施や、雪崩防止施設、防雪林等の整備 ○地域防災力の向上 ・迅速かつ円滑な災害対応に向けた防災関係機関の連携強化 ・住民等が迅速に避難できるよう河川情報や河川監視機器の充実を図ることによる情報提供などのソフト対策の推進		主な取組	
国、道、市町、民間		・ハザードマップ作成・普及支援や講習会実施等地方公共団体の防災力向上推進 ・防災教育・指導者養成支援や防災訓練実施等地域との協働による減災・防災対策の取組 ・「道の駅」の防災拠点化の推進 【官民共創の取組】 ・地方公共団体及び民間事業者等との協定締結 災害時の応援、災害対策用機械の出動等に関する協定締結 【主な基盤整備】 （国 R7 施行） ○河川 ・ハード・ソフト一体の事前防災対策の推進 後志利別川水系流域治水プロジェクト ・河川管理施設の長寿命化 ○道路 ・一般国道の防災対策 渡島中山防災（国道227号） 白神防災（国道228号） 乙部防災（国道229号） ・社会資本ストックの長寿命化対策 冷水橋架替（国道229号）	
国、道、市町		国、道、市町	
国、道、市町、民間			

道南連携地域「地域づくり推進ビジョン」

(別紙 3 - 2)

III 地域重点プロジェクト

5 - (1) 安全・安心に住み続けられる強靱な地域づくりプロジェクト / 推進主体：国 ■推進エリア：道南連携地域（渡島・檜山） (2/2)			
主な取組	実施主体	主な取組	実施主体
・無電柱化の推進 - 函館若松電線共同溝（国道 5 号） - 赤松街道電線共同溝（国道 5 号） - 十字街電線共同溝（国道 2 7 9 号） ・駒ヶ岳噴火時の迂回路、避難路の確保 - 尾札部道路（国道 2 7 8 号） ・冬期道路交通の安全性・信頼性の確保 ・道の駅の防災拠点化 ○港湾 ・港内静穏度向上を図る防波堤等の整備 - 函館港 - 榎法華港 - 森港 - 瀬棚港 ○漁港 ・港内静穏度向上を図る防波堤等の整備 - 江良漁港 - 青苗漁港 ○空港 ・排水機能強化による浸水対策 - 函館空港 ○防災 ・渡島地方日本海溝・千島海溝沿いの巨大地震津波避難対策推進会議 ・教育機関への防災教育支援 ・防災情報の共有化 ・災害用対策機械訓練の実施 ・TEC-FORCE（緊急災害対策派遣隊）の充実 ・リエゾン（現地情報連絡員）の充実		・渡島・檜山地方道路防災連絡協議会への参画 ・恵山火山防災協議会への参画 ・駒ヶ岳火山防災協議会への参画 ・地方公共団体の防災訓練へ参加	

道南連携地域「地域づくり推進ビジョン」

(別紙3-2)

III 地域重点プロジェクト

5-(2) 共創による多様で豊かな地域社会の形成プロジェクト / 推進主体：国 ■推進エリア：道南連携地域（渡島・檜山） (1/2)			
5 暮らし・社会基盤関連プロジェクト / 《地域のめざす姿》 5 誰もが安心して住み続けられる地域社会の維持			
【プロジェクトの概要】 生涯にわたり活躍し続ける場の創出や、協働による関係人口の創出・拡大等による活力ある地域コミュニティを実現するため多様な人材・主体による共創を図ります。また、デジタルの活用による生産空間の維持・発展を図ります。			
主な取組	実施主体	主な取組	実施主体
○生産空間の暮らしを支える賑わいの場の創出 ・道路、河川及び港湾空間等のオープンスペースや「道の駅」等の活用による賑わいの場の創出 ・地域による「美利河ダム水源地域ビジョン」等の取組み支援 ・「道の駅」等への日常生活サービス機能の集約・交通結節点や防災強化などの地域の拠点化 ・流域のあらゆる関係者が協働して行う「流域治水プロジェクト」の推進 ○多様な人材・主体による共創 ・「シーニックバイウェイ」等による地域の魅力向上や地域活性化 ・官民連携のプラットフォーム構築による多様な人材・主体の地域活動への参画・連携 ○デジタル技術を活用したインフラの維持管理及び技術活用の推進 ・リモート型への働き方への転換と建設現場の生産性向上を図るためのインフラ分野のDX推進 【官民共創の取組み】 ・かわたびほっかいどうの推進 後志利別川流域の町と連携し、水辺の利活用を促進 ・シーニックバイウェイ活動団体との連携及びルート運営行政連絡会議の開催 函館・大沼・噴火湾ルート どうなん・追分シーニックバイウェイルート ・道の駅関係者との連携および研究会の開催 どうなん「道の駅」研究会	国、道、市町、民間 国、道、市町、民間 国、道、市町	・みなとオアシス活動団体との連携及び運営協議会への参画 みなとオアシス函館運営協議会 みなとオアシス江差運営協議会 ・地域マリンビジョン協議会への参画及び現行ビジョンの改訂 函館（入舟）地域マリンビジョン推進協議会 函館（臼尻）地域マリンビジョン推進協議会 松前江良地域マリンビジョン協議会 福島地域マリンビジョン協議会 北海道砂原地域マリンビジョン協議会 八雲町熊石地域マリンビジョン協議会 奥尻地域マリンビジョン協議会 せたな町大成地域マリンビジョン協議会 ・「わが村は美しくー北海道」運動の推進 農山漁村における住民主体の地域活性化活動を支援 【主な基盤整備】 （国 R7 施行） ○河川 ・かわたびほっかいどう 後志利別川 ・ハード・ソフト一体の事前防災対策の推進 後志利別川水系流域治水プロジェクト	

道南連携地域「地域づくり推進ビジョン」

(別紙3-2)

III 地域重点プロジェクト

5 - (2) 共創による多様で豊かな地域社会の形成プロジェクト / 推進主体：国 ■推進エリア：道南連携地域（渡島・檜山） (2/2)			
5 暮らし・社会基盤関連プロジェクト / 《地域のめざす姿》 5 誰もが安心して住み続けられる地域社会の維持			
主な取組	実施主体	主な取組	実施主体
○道路 ・「道の駅」の休憩・情報発信・地域連携等の機能・魅力の向上 ・シーニックバイウェイ活動団体との連携 ○港湾 ・みなとを活用した交流拠点の形成 ○漁港 ・地域マリンビジョンによる水産業及び漁村地域の活性化の推進 ○技術管理 ・インフラDX・i-Construction先導事務所の設置 ・ICT技術を活用した建設現場の遠隔臨場等による非接触・リモートの取組推進 ・i-Constructionの普及のための「北海道開発局i-Con奨励賞」の取組事例周知 ・ICT現場見学会の実施			

道南連携地域「地域づくり推進ビジョン」

(別紙3-2)

III 地域重点プロジェクト

5-(3) 暮らしの安全・安心を支えるまちづくりプロジェクト / 推進主体：道 ■推進エリア：道南連携地域（渡島・檜山） (1/1)			
5 暮らし・社会基盤関連プロジェクト / 《地域のめざす姿》 5 誰もが安心して住み続けられる地域社会の維持			
【プロジェクトの概要】 道南連携地域は、道内の中でも人口減少の進行が顕著な地域であり、将来にわたりこの地域で安心して暮らしていくためには、地域の実情を踏まえながら、医療や交通などの生活基盤を持続的に確保するとともに、近年増加する自然災害等への対応を強化していく必要があります。 このため、地域住民をはじめ自治体や関係機関、事業者等の連携のもと、人口動態なども踏まえた地域全体の医療体制や交通体系の最適化に向けた取組を進めるとともに、ハード・ソフト両面から地域防災の充実強化を図るなど、安全・安心なまちづくりを推進していきます。			
主な取組	実施主体	主な取組	実施主体
○公共交通の維持・確保 ・持続的な公共交通ネットワークの構築及び公共交通に対する意識醸成や利便性の向上等による利用促進 ・離島との生活交通路線の維持 ○安心で質の高い医療・福祉サービスの強化 ・各区域の北海道医療計画地域推進方針の推進による医療提供体制の確保 ・南檜山メディカルネットワークの活動を通じた医療機能分担の仕組みづくり ・道立江差病院における札幌医科大学「地域医療研究教育センター」の機能を活用した地域医療の確保 ・地域包括ケアシステムの整備などによる高齢者や障害のある方々への福祉対策の推進 ・医師・看護師など医療・福祉従事者確保に向けた取組の推進 ・妊娠・出産、子育てなど、ライフステージに応じた子どもや子育て世代を支える取組の充実や環境の整備 ・新興感染症に備え、各医療機関の実情に応じた医療提供体制の整備 ○防災体制の向上と安全・安心なまちづくりの推進 ・感染症に対応した避難所運営体制の確立支援 ・地域防災体制の強化と住民の防災意識の向上 ・国や関係機関と連携したインフラの危険箇所等の予防点検や維持・管理の実施 ・ヒグマの生態等に関する普及啓発及び出沒時対応に向けた体制づくりと人材育成	国、道、市町、民間	【関連する主な基盤整備】 ○災害に備えた安全な道路交通環境の整備 ・国道の整備促進（防災対策・電線共同溝） ・道道の整備（防災対策） ○冬期における安全で快適な道路交通の確保 ・雪崩防止柵の整備 ・国道の整備促進 ・道道の整備 ○安全で安心な道路交通環境の整備 ・道道の整備（歩道設置等） ○洪水や土砂災害、火山噴火や大規模地震、津波などに備えた安全性の高い災害防止施設の整備 ・道管理河川の整備 ・土砂災害防止施設の整備 ・海岸施設の整備 ○治山施設の整備 ○高規格道路の整備 ・北海道縦貫自動車道の整備促進 ・函館・江差自動車道の整備促進 ○国内海上交通ネットワークの整備 ・重要港湾や地方港湾の整備	